

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年8月15日(日)第三主日礼拝  
週報「通算第570号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

|        |                             |        |
|--------|-----------------------------|--------|
| 【前奏祈祷】 |                             |        |
| 【賛美Ⅰ】  | 新聖歌340「救い主イエスと」             | p. 540 |
| 【交読文】  | No.10詩篇第31篇                 | p. 886 |
| 【賛美Ⅱ】  | 新聖歌248「人生の海の嵐に」             | p. 382 |
| 【使徒信条】 |                             |        |
| 【主の祈り】 |                             |        |
| 【先週説教】 |                             |        |
| 【賛美Ⅲ】  | オリジナル曲No.8「神様の愛の言葉」         |        |
| 【聖書朗読】 | 使徒の働き10章44節～48節(新約p. 255下段) |        |
| 【礼拝説教】 | 《異邦人の扉が開かれた時》               |        |
| 【聖餐式】  |                             |        |
| 【賛美Ⅳ】  | 新聖歌165「栄光イエスにあれ」            | p. 235 |
| 【平和祈り】 |                             |        |
| 【頌 栄】  | 新聖歌63 「父・御子・御霊の」            | p. 85  |
| 【祝祷後奏】 |                             |        |

### ●ポイント1. 「み言葉を聞いたすべての人々に」とは？

#### ※使徒の働き10章34節～36節「すべての人の主イエス」(新約p.255上段)

10:34 そこで、ペテロは口を開いてこう言った。「これで私は、はっきり分かりました。神はえこひいきをする方ではなく、

10:35 どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人は、神に受け入れられます。」

10:36 神は、イスラエルの子らにみ言葉を送り、イエス・キリストによって平和の福音を宣べ伝えられました。このイエス・キリストはすべての人の主です。」

### ●ポイント2. 「割礼を受けている信者」とは？

#### ※使徒の働き2章5節～8節「エルサレムの朝の九時に」(新約p.234上段)

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、

2:6 この物音がした為、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国の言葉で弟子たちが話すのを聞いて呆気にとられてしまった。

2:7 彼らは驚き、不思議に思って言った。「見なさい。話しているこの人たちはみな、ガリラヤの人ではないか。

2:8 それなのに、私たちそれぞれが生まれた国の言葉で話を聞くと、いったいどうしたことか。」

●ポイント3. 「彼らはペテロに願って、何日か滞在してもらった」とは？

※使徒の働き2章23節～24節・32節「ペテロの説教より」(新約p.235上段)

2:23 「神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって、十字架につけて殺したのです。

2:24 しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。

2:32 このイエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」

※使徒の働き10章27節～28節「ペテロのあいさつから」(新約p.254下段)

10:27 そして、コルネリウスと言葉を交わしながら家に入り、多くの人が集まっているのを見て、

10:28 その人たちにこう言った。「ご存じのとおり、ユダヤ人には、外国人と交わったり、外国人を訪問したりすることは許されていません。ところが、神は私に、どんな人のことも、きよくない者であるとか汚れた者であるとか言うてはならないことを、示してくださいました。」

※ガラテヤ人への手紙2章11節「パウロの指摘から」 (新約p.376上段)

2:11 ところが、ケファがアンティオキアに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。

2:12 ケファは、ある人たちがヤコブのところから来る前は、異邦人と一緒に食事をしていたのに、その人たちが来ると、割礼派の人々を恐れて異邦人から身を引き、離れて行ったからです。

## ◎先週のメッセージの概要【証人シモン・ペテロ】

《コルネリウスは、ここまでの経緯について話しました。シモン・ペテロはそれを聞くと、疑惑が晴れ、神様が自分をヤッファに遣わした理由が分かったのです。ここから、主の証人シモン・ペテロのメッセージが始まります。「これで私は、はっきり分かりました。神はえこひいきをする方ではなく、どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人は、神に受け入れられます。このイエス・キリストはすべての人の主です。」

そしてペテロは、過去にユダヤに起こった事について触れるのです。「あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事柄をご存じです。それは、ナザレのイエスのことです。」と。

数年前のあの過越の祭には、伝承では、30・40万人の人々がエルサレムに集結したと言われていています。コルネリウスも部下たちも、警備の応援にかき出され、その場に居合わせていたのです。しかも主イエスの十字架刑を執行したのは、同僚である百人隊長とその部下なのです。

この百人隊長が、「この方は本当に神の子であった」と告白しています。またピラトは、この百人隊長を呼びよせ、イエスがすでに死んだのかどうか尋ねています。この話をすでにコルネリウスは知っているのです。「私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムで行われた、すべてのことの証人です。人々はこのイエスを木にかけて殺しましたが、神はこの方を三日目によみがえらせ、現われさせて下さいました。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられた後、一緒に食べたり飲んだりしました。」

復活された日の早朝に、よみがえられた主イエスは、始めにマグダラのマリヤに現われ、そして、使徒の中ではペテロに最初に現われます。また、ペテロが忘れることの出来ない食事は、ガリラヤ湖畔での朝の食事なのです。彼は、使徒として多くの体験をしました。それは紛れもなく、今も生きておられる「復活の主イエス」の証人となる為であったのです。》

## ◎お知らせ

※次回第四主日礼拝は、平常通り8月22日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、8月18日(水)各家庭において行ないます。